

令和3年度 自己評価表【最終評価】

鳥取県立鳥取東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取として日本を支える人材の育成に努める。	今年度の 重点目標	1 主体性を身につけた、自ら学び自ら考え自ら行動する人を育成する。 2 社会の中で自らの役割を見つけ、一隅を照らすことのできる人を育成する。 3 困難に立ち向かう逞しさ(克己)、他者を思いやる優しさ(親和)、探究する積極性(進取)を持った人を育成する。				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況 ※生徒・保護者アンケート結果	評価	改善方策
1 社会貢献に繋がる 人間力の育成 【主体的に考え、 行動させる教育】	①学習・部活動・学校行事の3点を全力で追いかけ、主体的に行動する人を育成する。	○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒は全体で72.6%、1,2年生は64.6%である。1,2年生の40.2%が学習習慣・学習方法未確立と回答。 ○部活動加入率は93.8%。加入生徒の74.5%、保護者の74%が「部活動と勉強との両立ができていない」と回答 ○コロナ禍の中ではあったが、ほとんどの学校行事を工夫して実施した。また、生徒どうしが目標を共有し、その達成のために協力して取り組むことが出来た。86%の生徒が「対人関係能力の育成が図れている」と回答 ○ボランティア依頼は半減。中止が相次ぎ、申込者のうち参加できたのは約15%。なお、生徒会執行部や委員会が学校周辺を清掃する等の地域貢献活動を実施。	○学習と部活動との両立ができていない生徒が増えている。 ○対人関係能力の育成が図られているとの回答が85%以上(R1:75%、R2:86%)。 ○各種ボランティア活動や交流事業、学校行事等に主体的に参加している。 ○キャリアパスポートが有効に活用されている。	○課題の量や内容を工夫するとともに、各教科間で調整を行い、生徒の家庭学習が計画的に行えるようにする。 ○部活動において、引き続き週1日以上の日休日を設ける等、さらに多くの生徒が勉強と部活動を両立させることができるよう配慮する。 ○学校行事はもとより、日常の学校生活においても、クラス役員・教科係、清掃活動等、生徒がより主体的に取り組むよう支援する。 ○引き続きボランティアへの積極的参加を促す。 ○生徒主体で様々なことに取り組んでいくことができるよう、生徒会執行部と連携との意思疎通・連携を更に推進していく。	○89%の生徒が部活動が楽しみと回答。70%の生徒、73%の保護者が学習と部活動を両立させていると回答しているが教職員では63%にとどまっている。 ○92%の生徒が学校行事やLHRなどによって、対人関係能力が向上していると感じている。 ○東高祭や球技大会においては、コロナ禍の中にあってもできることを模索し、クラスやグループで目標を共有するとともに、その達成のためにお互いが協力して取り組むことができた。 ○積極的に多くの生徒が申込みをしたが、新型コロナ感染拡大のため急遽中止になったものもある。	B	○生徒が計画的に自宅学習に取り組むことができるよう、月ごとの部活動練習計画を示し、勉強と部活動との両立ができるようにする。 ○部活動との両立が更に達成できるよう、各月の部活動計画を綿密に練る。 ○生徒の主体性を引き出せるような働きかけを工夫し、計画的に実施していく。 ○学校行事のみならず、日常のクラス役員や教科係、清掃活動等においても、主体的に取り組むことができるよう支援する。 ○生徒会執行部を中心に、社会の情勢を敏感に感じ取りながら、コロナ禍の中でも出来ることを考え計画・実施していく。 ○ボランティア募集を案内し、参加希望の生徒が申し込めるようにしていく。
	②品位ある振舞を大切にさせることにも、他者を思いやる心を育成し、社会の中で「一隅を照らす」ことのできる人を育成する。	○スマホ等の平日利用時間が1時間以上の生徒の割合は54.9%、保護者の47%が適切に使用できていないと感じている。 ○自転車等の交通マナー向上を心掛けている生徒は97.7%であった。自転車事故は激減(R1:20件→R2:5件)したが、マナーに関する苦情が22件あった。 ○生徒の身だしなみ等について、教職員の47%が一致した指導が出来ていないと感じている。 ○生徒一人あたりの貸出冊数はR1年度比で1.6倍となった。	○スマホ等を平日1時間以上利用する生徒の割合が減少している。 ○自転車通学マナーが向上し、苦情件数や登下校時の事故件数が減少している。 ○生徒の身だしなみ等について、一致した指導が出来ていないと感じている教職員が35%未満になっている。 ○図書館の貸出冊数はR2年度同様貸出しが活発に行われている。	○スマホ等の適切な使用方法・使用時間について、実態把握をしながら啓発を続けていくとともに、家庭とも連携を取りながら指導していく。 ○自転車の交通マナーについて、機会あるごとに啓発指導を行うとともに、専門家による講習会を実施していく。 ○生徒の実態を学年と分掌とで共有し、連携を密にしながら指導していく。 ○図書委員の活動の場を積極的に設け、探究型学習に適した資料の充実と環境整備を進める。	○スマホ等の適切な使用方法・使用時間について、実態把握をしながら啓発を続けていくとともに、家庭とも連携を取りながら指導していく。 ○登下校時の自転車事故は6件と年々減少傾向にある。また、自転車マナーに関する苦情(一時停止違反や並進等)も9件と昨年度(28件)に比べ大幅に減少した。 ○生徒一人あたりの貸出冊数はR3年度と同程度(12月末時点)。1年生の貸出冊数が大幅に伸びた。探究学習や進路指導の場面で、新聞記事データベースの活用が増加している。	○継続してスマートフォン等の使用に関する調査を行った実態を把握するとともに、講演会や日常の指導で家庭と連携を取りながら啓発していく。 ○自転車運転のルールやマナーについて、担任や部顧問と連携を取りながら機会あるごとに指導を行う。また、登下校時の立ち番指導や、生徒会執行部と連携した啓発活動を行い、注意喚起していく。 ○図書委員の活動の場を積極的に設け、探究型学習に適した資料の充実と環境整備を進める。	B
	③日々の授業を中心に据え、基礎学力から応用力、さらには正解のない課題にまで主体的・協働的・探究的に取り組む人を育成する。	○94%の生徒がいじめを許さない学校である・安心して学べる学校であると回答 ○臨時休校等により年度当初は人間関係づくりを工夫して実施した。また、不登校傾向の生徒に対して、学年と情報共有や支援の協力を積極的に行うことができた。 ○教育相談員・SSW、及び関係外部専門機関とも密接に連携、情報共有し生徒の個別対応に活かした。	○95%上の生徒が、安心して学べる学校であると感じている。 ○生徒が自律的に生活を送ることができている。 ○組織としてすべての生徒の情報を把握し、共有し、適切に対応している。	○生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるように、一人一人にあった教育活動を支援していく。 ○新型コロナウイルスの状況把握とそれについての対策の合意と周知に努める。 ○関係機関と定期的に情報交換を行い、生徒の進路実現のための協力関係を築く。	○生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるように、一人一人にあった教育活動を支援していく。 ○新型コロナウイルスの状況把握とそれについての対策の合意と周知に努める。 ○関係機関と定期的に情報交換を行い、生徒の進路実現のための協力関係を築く。	○いじめや差別を許さない・安心して学べる学校であると98%の生徒が評価している。 ○外部専門機関と継続的に連携を図ることができた。	B
2 学習指導の充実 【勝負させる授業】	④受験は補欠なき団体戦であることを自覚させ、生徒同士がチームとして一丸となって学力向上に取り組む姿勢を育成する。	○6教科で研究授業・公開授業を実施。また、タブレット端末やデジタル教科書を活用した授業も日常的に実施。 ○生徒の志望進路に対応した教育課程の編成を行った。 ○全国模試の結果は目標数値に対して3年生はわずかに下回っているが概ね達成と言ってよい。1,2年生については開きが解消できていない。 ○「総合的な探究の時間」をより系統立て、工夫して実施できた。また理科数科課程も計画どおり実施できた。	○各教科の授業でICTの活用や授業改革が進み、教員の積極的な参加のもとで公開授業や研究授業が行われている。 ○R4年度実施教育課程について教員が理解するとともに、具体的な研究が進んでいる。 ○全国模試結果が各教科で設定した目標値を超えている。 ○総合的な探究の時間、理科数科課程研究が生徒の課題解決力の育成につながっている。	○研究授業・公開授業に一人3回以上参加するとともに、生徒の学習活動が活性化するように評価のあり方について検討する。 ○単位制の利点を活かした教育課程の編成に努める。 ○R2年度実施の共通テストを研究し、求められる力を明確にして、授業等にフィードバックする。 ○「総合的な探究の時間」等の取組について、職員全体でその内容や意義を共有する。	○各教科で研究授業・公開授業を実施するとともに、他教科・科目の授業を参観することで授業改善に努めた。 ○タブレット端末や電子黒板機能付プロジェクトを使用した授業が日常的に行われており、ICTを活用した学習活動や各種アンケート等が実施されている。 ○新学習指導要領実施に伴う教育課程の編成について情報を収集し、年度当初の案の見直しを行い、一定の方向性を示すことができた。	B	○各種オンライン講座を活用し、生徒個々の課題やニーズに応じた学習について研究を進める。 ○新学習指導要領実施に伴う教育課程について、各教科を中心に研究、検討を進め、継続して検討するとともに、生徒の学習活動の向上につながる評価のあり方や方法を工夫する。 ○コース・科目選択調査を通して自分の進路について具体的に考えさせ、進路実現のために必要な学習に自ら取り組むよう各教科で指導する。 ○探究活動が生徒の生き方やあり方を考えるきっかけとなるようさらに充実させる。少なくとも学校評価アンケートの項目に上がる程度には、学校内で教員間の意識を高め合っている。
	⑤第一志望にこだわらず、目的と目標をもって、将来、社会の中で自分の役割を果たせる人を育成する。	○88%の生徒が課題をしっかりとやり遂げていると回答している一方で、学習習慣・学習方法が確立できていると回答した生徒は70%であった。 ○スタディサプリやGoogle Classroomを導入し、課題の提示方法やアンケートでの利用等、研究が進みつつある。 ○計画的な家庭学習をしている生徒の割合(R1:63%→R2:72%)と、目標数値を下回ったが中間評価時より向上した。	○学習習慣・学習方法が確立できている生徒が75%を超えている。 ○校内模試、実力テストの範囲等を年度初めに示し、生徒自らが計画を立てて学習できるようにする。また、学習活動が向上するよう、それぞれの生徒の状況に応じた課題を提示するよう努める。 ○学年それぞれに応じてより高い進路目標を持ち、実現に向けて計画的に学習に取り組んでいる。	○校内模試、実力テストの範囲等を年度初めに示し、生徒自らが計画を立てて学習できるようにする。また、学習活動が向上するよう、それぞれの生徒の状況に応じた課題を提示するよう努める。 ○課題の提示方法や内容等、より効果的な方法を引き続き研究する。 ○進路スケジュールを意識させる。	○校内模試および実力テストの具体的な範囲の提示は、約1ヶ月前になっている。 ○82%の生徒が課題の量は適切であるとしているが、家庭学習を毎日計画的に行っている生徒は1,2年生で63%、自分自身で学習習慣・学習方法の確立ができている生徒は1,2年生で60%にとどまっております。家庭学習のあり方に課題がみられる。 ○進路指導資料や進路便り等で年間を通した進路スケジュールを示しながら、適宜指導を入れ、計画的に学習に取り組ませている。	○コース・科目選択調査を通して自分の進路について具体的に考えさせ、進路実現のために必要な学習に自ら取り組むよう各教科で指導する。 ○1年次に、各教科・科目の学習の仕方についての指導を丁寧に行う。 ○授業の予習、復習を中心に自宅学習を行うことが習慣となるよう、課題の量や質をさらに工夫するとともに、時間の使い方をマネジメントできる力を身に付けさせる。 ○校内模試は現行通りでよいが、実力テストは生徒自身が学習到達度を主体的に見極め、次の学習のステップとなるよう、その実施形態、内容など改善していく必要がある。	C
3 進路指導の強化 【挑戦させる進路指導】	⑥効果的な地域連携とPTA活動を推進する。	○難関大向け補講を開始するなど、第1志望を諦めさせずに取り組ませる指導によって、進学実績は飛躍的に向上。難関大学を志望する生徒も増えている。 ○生徒の進路実現に向けての姿勢及び理解度(R1:73%→R2:82%)は、目標数値を下回ったが中間評価時より改善した。 ○「次世代教師塾」を感染症対策のもとで2回実施	○3年間を見とおして各学年の取組が全校で共有され円滑に接続している。 ○難関大学を志望する生徒が増えている。 ○生徒の進路実現に向けての姿勢及び理解度が向上している(学校評価アンケート結果85%以上)。	○難関大向け補講の実施 ○進路行事1つ1つの意義をその都度意識させる。 ○教育系志望者の「次世代教師塾」への参加者を増やす。	○1・2年生では、成績上位者を養成するための補講や添削指導を実施している。 ○3年生は、難関大学のオープン模試受験者が増加した。 ○「次世代教師塾」を3回実施した。第1回を令和3年6月21(土)(25名)、第2回を令和3年11月27日(土)(30名)、第3回を令和4年2月19日(土)にリモート開催ではあったが20名の参加者があった。	B	○現在の取組を継続し、上位層への意識付けを継続していく。 ○「次世代教師塾」企画の意図、目的の周知を工夫し参加者の増加を促す。
	⑦各種広報紙の定期発行や学校ホームページの活用をさらに発展させて情報発信を充実させる。	○コロナ禍のために、活動が限定されたが、生徒会執行部や委員会が学校周辺を清掃する等の地域貢献活動を行った。 ○PTA各専門部が可能な範囲で活動を行った。	○異校種間連携(小・高・中)や地域との交流がさらに進む。 ○PTA行事に参加する保護者が増加する。 ○外部評価の結果を学校運営に反映できている。	○効果的な地域連携が出来るように実態把握に努めるとともに、生徒会執行部を中心に企画・実施していく。 ○保護者の意見・要望も踏まえながら行事を企画する。	○OPTA各専門部が可能な範囲で活動を行っている。	○保護者の意見・要望を踏まえながら行事を企画する。	B
4 学校運営の点検と教育環境の整備 【仕事と生活の調和】	⑧学校業務改善の取組を進め、職員のワークライフバランスを促進する。	○学校HPの更新やPTA広報紙等により、本校の取り組みや生徒の様子について積極的に発信することができた。 ○メール配信システム等を活用し、生徒・保護者への連絡を行うことができた。 ○月別の活動計画書、実績報告書により活動状況を確認し、必要に応じて計画の修正を行った。 ○時間外業務時間の多い教職員には、毎月個別に通知を发出して注意を促した。 ○3月末の教職員全体の時間外業務削減率は40.5%(平成29年度比)であったが、ガイドラインにある年間360時間を超えた教職員は32%であり、仕事と生活の調和を一層推進する必要がある。	○各種広報紙や学校HP等を利用して、学校の取組を積極的に広報している。 ○管理職による部活動の活動状況の確認と部活動に係る方針遵守の働きかけ。 ○夏季休業期間中に対外業務停止日を設ける。 ○時間外業務時間が、年間360時間を超える教職員を減らすよう留意するとともに、ワークとライフのバランスが取れていると感じている教職員がR3年度当初(69%)より10%増加している。	○学校に関する情報がより伝わりやすくなるよう、ホームページの工夫を行うとともに最新の情報となるよう努める。 ○引き続きメール配信システム等を活用し保護者に必要な情報を提供していく。 ○管理職による部活動の活動状況の確認と部活動に係る方針遵守の働きかけ。 ○夏季休業期間中に対外業務停止日を設ける。 ○時間外業務時間が、年間360時間を超える教職員には、毎月はじめに前月の時間外業務の状況を通知する。	○PTA文化広報部により「鳥取東高通信」を計画どおり発行し、本校の取り組みや生徒の様子について発信することができた。 ○メール配信システム等を活用し、生徒・保護者への連絡を行うことができた。 ○HP作成委員会を開催し、各分掌でホームページをさらに活用できるようにした。 ○メール配信システムを活用し、緊急時の連絡や保護者への連絡を行っている。 ○月別の活動計画書、実績報告書により活動状況を確認し、必要に応じて計画の修正を行っている。 ○新型コロナウイルス予防のため、各種行事の規模は縮小して実施しているが、準備のための負担は増大した。 ○夏季休業期間中に1日間対外業務停止を設けた。 ○時間外業務時間の多い教職員には、毎月個別に通知を发出して注意を促しており、1月末時点で時間外業務時間が80時間を超える職員は3人(4月2人、8月1人)。4月5時間を超える職員が延べ75人であった。1月末時点での教員の時間外業務の平均時間は22.9時間(H30年度37.5時間)となっている。 ○360時間を超えた教職員は令和2年度17名、令和3年度1月末現在11名。 ○ワークとライフのバランスが取れていると感じている教職員が2月末に93%であった。(R3年度当初は69%)	B	○学校に関する情報がより伝わりやすくなるよう、最新の情報になるよう努める。 ○引き続きメール配信システム等を活用し、保護者に必要な情報を提供していく。 ○学校ホームページでの部活動等の内容を最新の情報に更新する。 ○引き続きメール配信システムを活用し必要な情報を迅速に伝える。 ○管理職が45時間を超える職員に面談を行う。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】